

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291400014		
法人名	営利法人 矢崎総業株式会社		
事業所名	ヤザキケアセンター 紙ふうせん		
所在地	静岡県裾野市御宿1500		
自己評価作成日	平成28年1月28日	評価結果市町村受理日	平成28年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvosyoCd=2291400014-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成28年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ハード面では、矢崎総業Yシティという、緑多い環境に立地しており、建物もグループホームとしては広々とした造りになっております。食堂からは、雄大な富士山・春には桜を見ることが出来、1年を通じて季節を感じながら過ごして頂いています。またソフト面として、職員は、常に利用者様が望む生活とは何か？を考えながら、日々の介護にあたっています。職員全員が参加してのQC活動において、「その人らしく日々を過ごすには？」というテーマで話し合いを重ね、その方の「今ある力」「出来る事」を見極めて接していく。という答えを導き出しました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

雄大な富士山の裾野にある矢崎総業(株)Y-CITY内で、緑に囲まれ、法人の組織的なバックアップがあり、ハード・ソフト面共に恵まれた環境の中、運営されている事業所である。「『わたしらしく暮らしたい』を支えます。」という事業所理念の下、利用者の思いに添うよう、丁寧にケアプランを立て、管理者と職員が一丸となって利用者のケアに取り組んでいる。前回の外部評価の課題についても、目標を立て、積極的に対応している。職員は、利用者に対して温かく見守りながら大切にゆっくり寄り添い、利用者の持っている力を引き出せるよう、サポートしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	改善活動の話合いを通じて、『『わたしらしく暮らしたい』を支えます。』というグループホームの理念を導き出すことが出来ました	法人の理念から、『『わたしらしく暮らしたい』を支えます。』という事業所の理念をみんなで作った。利用者に喜んでもらえるサービスは何かを常に考え、実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	矢崎自治区に加入し、お互いの祭りに参加するなどの交流を行っています。矢崎保育園とは年間計画を作成し、行事の際に相互交流を行い、また普段から立ち寄れるよう、庭には遊具を設置しています。	Y-CITY(矢崎自治区)の自治会に加入している。祭りなどの行事は相互に参加し合い、特に保育園との交流も自然と日常的に行われている。自治会長が初めて事業所内に入ってこられたことも、前向きなつながりとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学校の職業体験の場として、受け入れを行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	提起(2か月に1度)開催し、利用者様本人、ご家族、区長、民生委員、包括の代表等と話し合い、サービス向上に生かしています。	運営推進会議は、裾野市北部包括支援センター・民生児童委員・自治会・利用者・家族・法人本部・施設長等多数出席し、2か月に1度開催している。食事レクリエーション等で、生活の場を見てもらう工夫をしている。事業所からの報告と共に積極的な意見交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括主催の、地域調整会議に参加している。裾野市主催の、ふれあい健康祭りに毎年出店しています。認定調査の更新の際、ご家族の代行として、介護保険室に申請に伺っています。	裾野市北部包括支援センターとは、地域構成会議等を通じて事業所の実情は適時に伝わっている。介護保険室とも連携を図り、担当者とは何時でも相談できる体制を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をし、ポスターを玄関ホールに掲示してあります。グループホームのスタッフが、2月18日に行われる「身体拘束廃止フォーラム」に参加予定で、報告と内部研修を行う予定です。	身体拘束ゼロ宣言をし、掲示も確認できた。「身体拘束廃止フォーラム」に職員が参加し、内部研修として、定例のカンファレンスで報告し、みんなで共有している。	

静岡県 ヤザキケアセンター紙ふうせん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に、外部研修を受け理解を深めていくために、社会福祉協議会主催の「高齢者虐待予防の為のワークショップ」に3月8日参加する予定です。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて、制度については学んでいます。現在の入居者様に該当の方はいらっしゃいません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては、申し込みから契約に至るまでの間、必要であれば複数回ご家族と面談を行います。ご家族の疑問がなくなる様に、十分に説明することを心掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が、職員に声をかけやすい様に、顔写真を掲示し、スタッフの紹介をしています。グループ長・サブリーダー(看護師)は、体調の小さな変化についても、こまめにご家族に連絡し、報告するよう心掛けています。	ご家族に向けたアンケート調査で、「日中退屈そうにしている」との回答を受けて、すぐ話し合いの場を持った。出来ることを探している中で、その時に持っている力を見極めることが必要と気づき、個別に対応するなど、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例カンファレンスや改善活動の中で出てきた意見を、部門長会議に提出しています。	毎月のカンファレンス、ミーティング、申し送り等での職員からの意見を事業所の運営に活かしている。職員個々の意見を聞く場として、個別の面談も行っている。職員同士のコミュニケーションも良好である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更新の際に、評価を行い、給与の見直しを行っています。資格取得についても給与に反映し向上心が持てるように配慮されています。処遇改善加算を賞与に反映しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には、積極的に参加できる様案内を行い、業務として参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成27年3月に裾野市グループホーム連絡協議会を立ち上げ、行政を交えた話し合いの場を設けました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	言葉からの訴えばかりでなく、言語化されない訴えをくみとれるように寄り添い、信頼関係を築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必要に応じて何度か面談する機会を作り、安心してご相談いただける様努めている。また電話で日常の様子などを連絡しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急性があるかどうか検討し、直ぐこちらのサービスが提供できない場合は、他のサービス利用をご検討頂く様、お話しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の、今現在持てる力を把握して、出来る事は、やっていただき、スタッフと水平の関係が築ける様努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時の説明において、ご家族の協力が必須であることをご理解頂いて、受診や外出の協力を仰いでいます。また面会に来ていただける様お願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会を受け入れており、主介護者ばかりでなく、お子様、御兄弟、ご親戚、お友達など気軽に寄っていただいています。お孫さんの結婚式や法事などにも出席されています。	面会はいつでも受け入れており、家族や親戚・友人等々の訪問がある。家族の協力で法事に参加したり、併設のデイサービスの利用者との交流もあり、馴染みの方々との関係の継続を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士が、スムーズに関われるように、スタッフは間に入って意志を伝達する等サポートしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	項目に該当する事例がみとめられていません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	改善活動にて、「その人らしく、日々を楽しく過ごすには？」をテーマに話し合いを行いました。スタッフ全員が、利用者様一人一人の思いをくみとる事の重要さに気付くことが出来たと考えています。	家族と本人から聴き取った話を擦り合わせた上で、「その人らしく日々を楽しく過ごすには？」を常に考え、利用者一人ひとりの発言や表情、態度、行動から思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の暮らし方について、ご家族に記入していただくシートを作り活用しています。ご本人に伺える場合は伺っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の担当スタッフを決めると共に、毎日の過ごし方、心身状態を記録しています。それを基にカンファレンスを通してスタッフ全員の意見を出し、総合的に把握できるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の希望・想い、ご家族の考え、担当スタッフの意見などを踏まえて、計画作成担当者が作成しています。	職員9名で担当制にしている。毎月「入居者様現況把握票」を作成し、カンファレンスで話し合い、日頃のケアに対する気づきや、家族からの要望・新たな課題を出し合いケアプランに繋いでいる	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、介護記録・申し送りノート・思いやりノートに記載しており、スタッフは常に目を通し、情報を共有できるように心がけています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームのスタッフだけでは、利用者様の希望を叶えられない場合は、他部署のスタッフの力を借り、出来るだけ希望が叶えられるように努めています。		

静岡県 ヤザキケアセンター紙ふうせん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一般ボランティアに加え、社内ボランティアの協力を得て、ご利用者様の生活の充実のお手伝いをしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に入居前からの主治医と連携を取っています。受診はご家族にお願いしていますが、緊急の場合はグループ長・看護師が対応する事もあります。	利用者・家族の意向に添って、かかりつけ医か事業所の協力医かを選択している。職員である看護師が状況把握をしており、医師と連携して利用者の日々の健康管理から緊急時までの対応をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームの職員として看護師が1名おり、健康管理・主治医との連携・急変事の対応を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様が入院する場合は、こちらでの生活の様子や・内服薬などについての情報を直ちにまとめ、医療機関にお渡ししています。また退院されてきた時は、病院からの情報をいただき、相互に情報交換を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	H27、9にH18、11に入居された利用者様が、住み慣れたお部屋でお亡くなりになりました。往診して下さる主治医、ご家族の協力の元、最後まで暮らしていただけたと思います。「紙ふうせんの看取り指針」を作成し、入居時にご家族に説明させていただいています。	昨年、看取りを受けとめ、経験している。「紙ふうせんの看取り指針」を作成し、利用開始時に家族に対して、重度化や終末期対応について説明している。利用者や家族の意思を尊重し、その都度、医師や看護師・職員と話し合うこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの操作については、全職員が講習を受け、使用法を把握しています。夜勤帯の勤務では、AEDを近くに置き業務にあたっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中については、防災訓練にて対応を確認しています。夜間についても定期的に対応を確認し、矢崎自治区・警備会社とも協力体制を築いています。	定期的に防災訓練を行っている。スプリンクラー、発電機、富士山の噴火の対応も常に念頭に置き、社宅の自治会との連携を作り始めている。警備会社も常駐し、総合的に取り組んでいる。	法人内の連携は取れているので、今後は他法人も視野に入れて、連携を図りたい。その為のマニュアル・書類等速やかにBCP(事業継続計画)が行われることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様は、人生の先輩である事を念頭に置き、支援を行うように努めています。言葉づかいについても、拘束につながる声掛けにならない様に努めています。	BPSD(認知症の周辺症状)についての外部研修やリーダー研修を受け、カンファレンスで発表し、共有している。個々の自尊心やプライバシーを損ねない声掛けや見守り等の対応の徹底を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で表した思いはもちろんの事、非言語的な思いをくみとれる様、寄り添いながら、日々支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事・掃除・就寝など大まかな日課以外は、一人ひとりの意向とペースを尊重し、自由に過ごして頂いています。起床時間なども体調やご気分によって変わることも多々あります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装については、お好みの物を、ご家族に用意していただき、出来る限り自由に選んで頂いています。介助が必要な方には最小限のお手伝いをしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みについては、ご本人やご家族から聞き取りを行い対応しています。事業所の畑で採れた野菜の下ごしらえをお願いしたりしています。定期的に行う食事レクでは、たこ焼きづくりが好評でした。	給食サービスを利用しているが、日曜日は3食キッチンで調理する。散歩で採ったくみでケーキを作ったり、椎茸を菌から育てて味噌汁にしたり、デイサービス、グループホーム、保育園が関わって作った梅干しで、おにぎりを作り皆でいただくなど、楽しみとなるような工夫をしている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援	食事量・水分量のチェックを行い、足りない方に対しては、その方に合った摂取法にて不足の無い様に支援しています。食事時間以外にお茶の時間を設けたり、入浴後に水分を補給するなど工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自歯の方、義歯の方それぞれ毎食後、口腔ケアを行っています。定期的に歯科衛生士の訪問診療を受けている利用者様もおられます。突発的な場合にも往診をお願いできる歯科医もあります。		

静岡県 ヤザキケアセンター紙ふうせん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄にむけて、誘導・声掛けをしています。	日中はできるだけトイレでの排泄を基本としている。職員は、排泄のパターンが一人ひとり違うことを意識して、排泄の自立を支援している。おむつ使用の利用者が日中リハビリパンツになった事例がある。利用者がトイレの識別ができるようにマークが付いている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分・運動でのコントロールが不可の場合、主治医上申にて内服処方して頂いています。便秘薬が不向きの方には、座薬で対応する事もあります。排泄チェック表により、個々の排泄期間を把握する様に心掛けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月～土はいつでも入浴して頂ける様に用意しています。高齢で、入浴が負担になってしまう場合以外は、毎日入浴して頂きたいと考えています。	法人のお湯はたっぷり使えるので、特に清潔と気持ちの良い入浴を大切にしている。日曜日以外は入浴が可能で、利用者一人ひとりの希望に添った入浴を楽しむ支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床から就寝までの1日の生活のリズムを画一的にせず、一人ひとりの生活パターン時に応じて、休息・睡眠を摂って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書をファイルにまとめ、いつでも見れるようにしている。血圧の薬については、数値をチェックしてから服用して頂く様にしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴からこれまでの趣味・嗜好を把握する努力をしています。スタッフと一緒に手芸を楽しんだり、畑仕事や、カラオケ室を利用するなどして気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には事業所の中を歩いたり、ウッドデッキに出て、畑をみる・ウサギに触れるなどの機会を持っています。昨年試みた、夕食後のイルミネーション鑑賞が好評でしたので、3月に行う予定です。	日々の気持ちの切り替えができるように、一人ひとりに合わせた外出支援をしている。広いウッドデッキに出たり、ウサギと触れ合ったり、近くの桜並木を散歩したり、クルミ拾いもしている。訪問調査当日は、利用者が気持ちよさそうに庭の手入れをしていた。	

静岡県 ヤザキケアセンター紙ふうせん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員の方が行うことは難しいが、外出の際ご本人の預り金にてお好きな物を選んで頂き購入するお手伝いをしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により、職員が仲立ちして電話連絡をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様を混乱させることが無い様に配慮しています。紙ふうせん便りの掲示や、花を置く事などで、居心地良く過ごして頂ける様に工夫しています。	リビングはゆったりとしたサロンのようで、広く明るく、清潔感があり、生活空間の住み分けができています。空調が管理されて、床暖房で快適である。吹き抜けには植樹があり、花など季節感も大切にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	あちこちに、ソファや長椅子を置き、好きな場所に休んでいただける様に配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの家具を持って来て頂いたり、家族の写真を置く等、ご家族の協力を頂きながら、落ち着いて過ごして頂けるように工夫しています。	各居室は、掃除も行き届いており清潔で、入口には暖簾がかけられていて、温かみを感じさせる。今までの使い慣れた家具や写真などを持ってきている利用者もいて、それぞれに過ごしやすい居住まいになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に歩行して頂き、筋力の維持が図れる様に配慮しています。また居室の目印となる暖簾・トイレの場所を知らせる張り紙などにより、間違える事のない様工夫しています。		